大嘗祭〝後〟の取り組みへ

日本福音同盟が協議

聖書的世界観で憲法深化を　稲垣

「信教の自由」が天皇制問う　西川

講演した稲垣久和氏（右）と西川重則氏（中）

日本福音同盟（JEA、山口昇理事長）では、社会委員会（岡部高明委員長）主催で、一月に続き二回目の大嘗祭問題協議会を、大嘗祭直後の十一月二十六、二十七日、東京都日野市のラ・サール研修所で開き、十七教派三団体から三十人余が集った。

これは、キリスト教界の反対の意思表示にもかかわらず、政府が関与して大嘗祭が強行された日本の状況の中、聖書信仰に立つキリスト者、教会の行き方を考え、祈り合うため、稲垣久和氏（東京基督教大学助教授）、西川重則氏（政教分離の会事務局長）を講師に開かれたもの。

両氏は、大嘗祭問題に関連して「憲法が定める政教分離・信教の自由原則の厳守を求める運動を」（西川）、「政教分離だけでは戦えない」（稲垣）た意見が出た。名教派からの報告として、署名への取り組み、委員会等の新設、学習会への回帰が起こっているからと解説。キリスト者は「近代」をも批判的に意味付ける、聖書に基づくキリスト教社会哲学を形成し、そこに立っていかねば戦えないと指摘。

西欧近代哲学が、合理的、中立的な知識や正義の根拠を目指して失敗し、それに対して現代哲学が、意味の枠組みとしての世界観の必要を提起している思想的流れを解説。

現代哲学を受けたキリスト教側からの、神の召しにこたえる思想的、実践的取り組みを問い掛けた。キリスト教世界観の立場から、それ自体は真理ではないが「力」を持つ異教的世界観のただ中にある人々に、正しい社会の在り方を提言できると語った。そのロが時のローマ法を活用して伝道の自由を得たように、この世の法にすぎない憲法だが、神の恵みとして活用すべきと語った。

聖書が求める、社会における正義と公正の実現にとって、神によってつくられた一人ひとりの人間の権利が守られることが大切だし、その基盤は、心の領域の自由にあるとして、一九～二一条の〝精神活動の自由〟を含む現憲法を高く評価。キリスト者自らのためだけでなく、隣人、特に弱者の福利のためにこそ、この憲法原則が守られるよう努力すべきだと語った。

政府が関与して、天皇を国民すべてが信じるべき「神」にしようとする国・日本の在り方の問題を指摘。「天皇制問題に取り組むには、政教分離・信教の自由を掘り下げることこそが近道。為政者への警告と祈りと同じくきわめて重要である」と強調した。

西川氏は「天皇の季節が続く中で、クリスチャンに徹することこそ、信仰と勇気を持って生きることにつながる。だから、聖書に固着して話したい」と前置き。

憲法をクリスチャンが大切にすることについて、使徒一ロが時のローマ法を活用して伝道の自由を得たように、この世の法にすぎない憲法だが、神の恵みとして活用すべきと語った。

聖餐式は、天皇が儀式の中で食事をするといわれることを踏えて行われた。一回目の司式をした金師は、「天皇は、腹を満たす食物のためにのみ感謝するが、私たちは永遠のいのちに至るまことの食べものを分かち合う」二回目の司式者の皆川師は、「天皇がアマテラスと共に食して霊力を受けるのと違い、私たちはキリストにあって一つとなること で霊的力を頂き、とりなしの祭司として強められよう」と語った。静かに明るく、喜びに満ちた二回の聖餐式だった（写真）。

「キリストの主権の宣言」では、前半は北海道から三重まで、後半は滋賀から沖縄の県名を挙げ、「キリストが北海道の上に主であることを宣言する」「支配してきた悪霊たち、キリストの足元にひれ伏せ」「住む人々、キリストがあなたがたの上に主だ」と皆川師が代表して「宣言」。出席者はアーメンとこたえた。

また「霊の戦い」として、儀式により天皇のところに集まってくる「アマテラスをはじめとする悪霊たち」をキリストの名によって縛り追放し、天皇がキリストに向かってひざまずくその魂に働きかけて下さるよう参加者各自が集中して祈った。

大嘗祭に〝霊の戦い〟

ファクシミリで続々と入って来る全国断食者氏名を背に、東京・西早稲田の日本キリスト教会館断食小屋で

全国で千8百人が抗議断食

最長100時間

新天皇の大嘗祭（だいじょうさい）が十一月二十二日夜から二十三日未明にかけて行われた。中最大の山場とされ、新天皇が〝天皇霊〟を受けて神と一体化するといわれるなど強い神道色の公的行事」として宮廷費が使われたことなどから論議を巻き起こしたが、儀式の実態は、代々天皇だけに口伝伝えられる秘儀としてベールに包まれたまま。この時にあたってキリスト教界では、断食や徹夜の祈祷会が各地で開かれた。それは抗議の意思表示であり、また大嘗祭を「霊的挑戦」と受け止めての戦いでもあった。

大嘗祭愚の断食をした人めて前から自主的に断食を予の数が、東京・西早稲田の大定していた人々が、「断食巡嘗祭抗議100時間断食実行委員動」を知って〝連係〟したと会に入った報告だけで、全国いうケースもそれを上回る勢でヤ八百人にのぼった（十一いであった模様。

月末報告）。その中、「百時間断十九日朝から開設された、食」者は四十九人。断食の「拠西早稲田のキリスト教会館駐点」は百か所以上で、そこで車場仮設の「断食小屋」に、は断食者らが礼拝や祈祷会、ファクシミリや電話、郵便で学習会をした。個人で普段とと続々と断食参加の報告が入おりの仕事をしながらや、家り、「小屋」からも断食ニュースが二十三日の通算終了まで庭での断食者も多数。五回、全国に流された。

日本のキリスト者が、かつ同盟基督有志て自ら国民儀礼をし、朝鮮の夜更けまで祈る兄姉への神社参拝強要に加担埼玉県の同盟基督・朝霞教した罪への悔い改めを踏会には、二十二日深夜十一時、まえ、同時に抗議を表明するた十数人の同盟基督教団の教めの断食だとの主旨を、十数職、信徒の有志が集まり、主人の呼び掛け人が呼び掛けたが祈祷会（すきでん）の後の終了ことへの賛同が広がったわ後、一部が夜を徹して祈る断け。同時に、各自の意味をこ食集会に合流した。

基督教団（東京都豊島区）では、二十二日午後七時から翌朝六時まで祈祷会をし、悔い改めの祈り、聖餐（せいさん）式、キリスト主権の「宣言」などを、大嘗祭のプログラムに対応させ、宵（よい）と深夜の二回行った。

悔い改めについて日・ウィリアムズ師（英国・ハウスチャーチ牧師）は、「とりなしに力強く臨むため、神に深く心探られ、示されるまで祈る」ことを訓め真実に悔い改め、血しおによってきよめられなくて

渋谷福音教会（金サムエル牧師）では、二十二日午後七時から翌朝六時まで祈祷会をし、悔い改めの祈り、聖餐（せいさん）式、キリスト主権の「宣言」などを、大嘗祭のプログラムに対応させ、宵（よい）と深夜の二回行った。

悔い改めについて日・ウィリアムズ師（英国・ハウスチャーチ牧師）は、「とりなしに力強く臨むため、神に深く心探られ、示されるまで祈る」ことを訓め真実に悔い改め、血しおによってきよめられなくて自分が集中して祈った。

する二十三日早朝三時まで、して〝断食中の参加者も多かった「世所での祈祷会も守られるように」との祈りも。

同盟基督・新潟ブロックヤスク二学習祈祷会でも、二十三日夜、新潟福音教会に約二十人が集まり信仰者と国家に関する聖書個所の輪読、グループ別祈り会をした。

横浜では十二日夜、日基教会・横浜長老教会に同盟基督・横浜上野町教会、単立・港北聖書教会などから四十人近くが集まり、キリスト者の在

日本のためのとりなしの会（木下東京、京都、大阪などで徹夜の祈祷会をした。東京の

徹夜でとりなし〝共食〟超え聖餐

関西の福音派が抗議集会

【大阪支局】関西地区の福音派教会のクリスチャンたちは二十三日の午後一時からナザレン・桃谷教会を会場に「大嘗祭抗議集会」（主催・信教の自由ネットワーク）を開き、クリスチャン新聞解説委員の稲垣久和氏が「天皇制とキリスト教」と題して発題。

稲垣氏は、クリスチャンが大嘗祭の問題について憲法に規定されている政教分離原則から反対することを評価しながらも、キリスト者がキリスト者としてのパラタイム（枠組み、世界観）をもってこの問題に取り組むことの重要性を訴えた。

集会は稲垣氏の発題を受けて、滝浦滋師（改基長老・岡本契約教会牧師）の進行で稲垣氏と池尻良一師（福音交友会・向陽聖書教会牧師）の討論を行った。フロアからの質問も受けながら、政教分離や信教の自由の考え方などについて討論が行われた。

当日に賛美で信教の自由

二十二日に神戸では、最近、信教の自由をテーマにした曲を作って話題を集めている「ひとつのパンニストリーズ」代表の篠崎俊彦さんを招

本質問題への戦い決意表明

日キ教団大阪教区

十一月二十三日の午前十時から日キ教団大阪教区（原田隼卓教区議長）主催の大嘗祭に反対するキリスト者の集いが日キ教団・天満教会で開催され、大阪教区内にある各委員会がそれぞれ大嘗祭開催に当たっての決意表明を発表した。表明をしたのは伝道委員会、教育委員会、社会委員会、教師委員会、部落解放委員会、「賀川豊彦と現代教会」問題小委員会。各表明とも大嘗祭の問題が今回の一連の行事に反対して終わるのでなく、その根底にある本質的問題を解決していくことの必要性を強調、これからまた息の長い戦いが始まるとの認識を示した。最後に「大嘗祭」反対の大会宣言を採択した。

訂正　11月25日号2面論説「礼拝は、神の恵みが前提となっている。信徒がバラバラでいるのはよくないから、皆で集まって礼拝しようではないか。」の文脈末尾を「礼拝しようではないかではない。」に訂正します。

ろんせつ〈論説〉

クリスマスに内実を

今年もクリスマスの月に入り、あらゆる分野、領域で〝メリー・クリスマス〟の文字や装飾が目につく。一般の新聞、雑誌、特別セールの宣伝チラシ、ラジオ、テレビでは、キリスト教会より何日も早くから話題にしている。例年のことながら、不思議な思いと同時に、教会自体のクリスマスの祝い方について、果たして今日のような仕方でよいのだろうかと反省させられるものである。

批判だけでなく

ひところ、信者でない人たちのクリスマスのお祝いが盛んなころ、「信者でもないのに」という表現をもって、ツリーの飾り、プレゼント交換、クリスマス・ケーキやティー・パーティーを嘲笑（ちょうしょう）気味にあしらったことがあるような気がする。それは理屈としては正論かもしれないが、心情的には、一般の人たちの「祝クリスマス」ムードを抑圧する「マイナス効果」を与えていたのではなかったかと、今さらながら、反省させられる思いである。

というのは、最近、日本の社会一般の傾向として、「祝クリスマス」ムードが次第に弱くなり、クリスマスを飛び越えて「年末・年始」の方が強調されるようになっていると見聞するからである。これは、キリスト者の「まじめさ」が、逆に「福音」の広がりと深さを損なってしまっているからではないかとも思われる。もう少し、大きな心で受け止めてよいと思う。主は、「あなたがたに反対しない者はあなたがたの味方です」と言われたことも一つの示唆であると言えよう。

表面的に終わらず

他方、キリスト者や教会でのクリスマスの祝い方、過ごし方についても吟味しなければならない面があるように思われる。

意見が分かれて不快になったり、教会のツリー、キャンドルその他の装飾のことなどで好ましくない論争になったりすることがあるとすれば、それはあまりにも「救い主のご降誕」の趣旨とはかけ離れた、愚かな騒ぎであると言わなければならない。

人間には、良きにつけ悪しきにつけ、「慣れる」という性質がある。従って、その「慣れ」が良い方に向いているのか、あるいは、良くない方に向いているのか、時々吟味しなければならない。

毎年、必ず巡って来るクリスマスの祝い方、過ごし方についても、それだけに、よく祈り、考え、工夫して、その年ごとに新鮮な祝福を覚えられるように努力する必要がある。

その中心的な点は「霊的に新鮮な祝福」を覚えることではないか。この時にこそ、神の御子が、人となってこの世において下さったことの状況を、本当に祈りつつ思い巡らし、聖書をじっくりと読み、みことばから想像し、また、その出来事と意味を、自分自身との関係でもしっかりととらえ、その祝福を味わいつつ心から賛美をささげることによって体験されると信じる。一人でも多くのキリスト者が、このような「霊的な、内実のある祝福されたクリスマス」をお祝いしているのを人々が見るとき、恐らく、どのような装飾やパーティーよりも、一般の人々にクリスマスの喜びと祝福をあかしすることになるのではないか。内実のないクリスマスは、形式的で、他の人々にも何の祝福も与えないであろう。

教会として計画し、行う特別な集会でも、有志で持つ楽しいパーティーでも、御子の〝降誕の真の意味〟と祝福が、そこに参加する一人でも多くの人たちに、実質的に伝わるように努め、真にクリスマスのお祝いになることを切に祈るものである。

（論説委員＝小助川次雄）

クリスマスに内実を

一つは、「祝クリスマス」の楽しい面だけの取り上げ方についてであり、もう一つは、華やかさの強調の傾向についてである。しかもそのような傾向が、御子キリスト（救い主）の降誕の真の意味についても考えたり、話したりすることを次第に形式的、表面的なものにしてしまっているのである。

教会学校の子供たちのクリスマス祝会の飾りや衣装（服装）などのことで

〈自伝抄〉

イエスはわがいのち

羽鳥明　画・タナカヒカル

手術を通して

五十四年前、人生の目的がわからず、自殺未遂までしでかした少年は、四月四日の春雨そぼふる晩、前橋キリスト教会において、バーネット宣教師と、舟喜顕一先生のご教導を受け、イエス・キリストを救い主として心にいただいた。雨にぬれながら家路についた時、その少年は、心の中で叫んでいた。「イエスさま、これから僕は、あなたのために生きればいいんですネ」

「イエスはわがいのち」の私の生涯は、その時から始まった。

ほとんど七年前、私は生きるか死ぬかの心臓の大手術を受けたが、ひとえに神のあわれみと、数えきれない全日本、否全世界の主にある友の祈りの支えにより、奇跡的に見ちがえるように元気になり、この数年間、今までの倍のペースで伝道の業に携わらせて頂いた。

今年七十歳の誕生日を迎えた前後から、体の不調を覚え始めた。時々息がつまって歩行困難になる。病院に定期検査にかけられた。結果はすこぶる悪かった。「心臓が虚血状態です。心不全です。すぐ入院です。心臓カテーテルで検査しましょう」たてこんだスケジュールのことが気になって、入院は十二月に延ばして頂いたが、検査の結果は、再手術か、活動禁止か、無罪放免かわからない。しかし、不思議な程、心はゆったりと平安である。そして七年前の手術の前夜を思い返した。

夜十時過ぎ、病棟主任の看護婦さんが明日の手術の説明に来られた。「羽鳥さん、明日は大手術、今晩はぐっすりやすんでおいて下さいよ。でも大手術の前、よく眠れる人いないんですよネ。ようく効く睡眠薬を出しますから、それを飲んで、ぐっすり寝ておいて下さい」

「はい」と答えて手を差し出しかけた私に彼女はこういった「あら、羽鳥さん、牧師さんでしたわネ、牧師さんに睡眠薬いらないわネ」

薬をもらいそこねた私の心にすぐ、みことばが来た。

「平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。」（詩四・8）

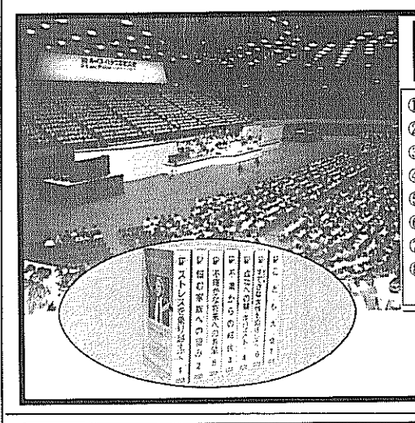
それから詩篇の第四篇をくりかえしくりかえし読んだ。

それまで四十七年のクリスチャン生涯は、恵みの池に浸っていた。弱い私にキリストの恵みは十分であった。それは神の十分、愛の十分、この私への十分、今の十分であった。

まことに主の恵みによって今の私がある。主のあわれみは朝ごとに新鮮で、尽きることがなく、どんな時にもそこにあった。祈りに応（こた）えて主は危険から救い出して下さるばかりか、私の足を巌（いわお）の上に置き、私の口には新しい歌がさずけられた。まことに「イエスはわがいのち」であった。

その晩ぐっすり眠って朝五時、目を覚ますと、家内の顔がすぐそばにあった。妻愛子は、神の最大の恵みの賜物。

（太平洋放送協会理事長）



'90 ルイス・パラウ国際大会
収録ビデオ完成!!
①クルセード（第1日）10/17 ストレスを乗り越えて
②クルセード（第2日）10/18 悩む家族への望み
③クルセード（第3日）10/19 不満からの解放
④クルセード（第4日）10/20 成功への鍵・キリスト
⑤クルセード（第5日）10/21 不確かな将来への希望
⑥婦人大会 10/18 すてきな女性をめざして
⑦こども大会 10/20
⑧総集編（No1～7のまとめ）
最高の録画システムを駆使した、ビデオ・テープを教会や家庭での伝道のための集会やプレゼントに、また参加記念としてなど、ぜひご活用下さい。
1本3,000円　セット価格（8本組）20,000円
■申し込み・お問い合わせは下記まで
全国のキリスト教書店でもお買い求めになれます。
日本ミッション制作部　〒583 羽曳野市はびきの1-6-1
TEL 0729-39-6600
FAX 0729-55-5021
（'90ルイス・パラウ国際大会実行委員会より委託）

百万人の福音スペシャル
好評発売中…クリスマス・新年の贈り物にぜひどうぞ!
百万人の福音1月号
12月5日発売●定価460円（税込）〒61円
特集 日々聖書とともに
■メッセージ／今年こそは、聖書の通読を!／渡辺勝弘
■インタビュー／野口秀先生に聞く聖書の読み方■デボーションノート／弘中恒生■証し／伊藤チズヱ、高良研一、瀬底ノリ子、二神春恵、川島正則、野村陽子
●キリストの証人／見えない世界のすばらしさ／阪井和夫●賛美の旗手たち／宮里隆太郎●この町にこの牧師あり／浜崎英一牧師夫妻●四季抄／星野富弘●主よ、来てください／井戸垣彰●小さな試動のメッセージ／辻岡健象●漢方料理入門／荘　明義：他好評連載多数
アンデルセン シンフォニー
（文）横山麗子・（写真）小林恵
アンデルセンの生涯と作品をキリスト教信仰からとらえたユニークで美しい一冊!
AB判・ムック・80頁（内カラー64ページ）定価980円（税込）〒76円
●お求めは全国のキリスト教書店または、百万人の福音まで。
百万人の福音／〒160東京都新宿区信濃町6 ☎03-353-9345（いのちのことば社）

救世軍　社会なべ
ボランティア募集!　募金のお願い!
☎06-551-9187
〒551 大阪市大正区泉尾1-14-16 泉尾小隊（担当：川口）
郵便局 振替口座 大阪0-1499 救世軍関西四国連隊本部

配偶者求む!
男性・53歳・初婚・受洗後24年
高卒・会社員・164cm・72kg
川崎市在住
――お問い合わせ先――
柿谷カウンセリングセンター結婚紹介室
〒255 神奈川県中郡大磯町大磯2205-23
TEL 0463―61―4114

キリスト教葬儀
教会及び自宅装飾
写真・額花・十字架生花・盛花
寝台車・マイクロバス等手配
㈱中杉商事
本社　東京都中野区中野1-32-5
☎03(365)3162代
◆事業部 FAX.03(361)0509
●聖地研究会●イスラエル・トルコ・長崎・東北への旅行企画●各種セレモニーのアフターケア
代表取締役社長
皆川　和巳（高井戸教会員）
事業部長
西田　勝（三軒茶屋教会員）

ご注文、ニュース、広告の連絡は
クリスチャン新聞大阪支局へ
〒530 大阪市北区梅田3－2－14 大弘ビル6F
☎（06）348－0562

ぜんそく
元堺病院薬局長中田順之助「日本神学校出身」がその一生涯、いのちをかけて完成した「喘息の根治法」です。お申し込み下さい。無代進呈します。
〒590 堺市市之町東三―二―三 ナカタ薬品